

2011年3月期 第3四半期決算説明会



ZeeM

株式会社クレオ
2011年2月4日



決算概要

2011年3月期第3四半期(累計) 決算概要

(百万円)	2010/3期 第3四半期	2011/3期 第3四半期	計画値
売上	6,953	6,800	6,900
営業利益	△79	△202	△250
経常利益	△67	△191	△250
四半期純利益	△56	△383	△390

■全体

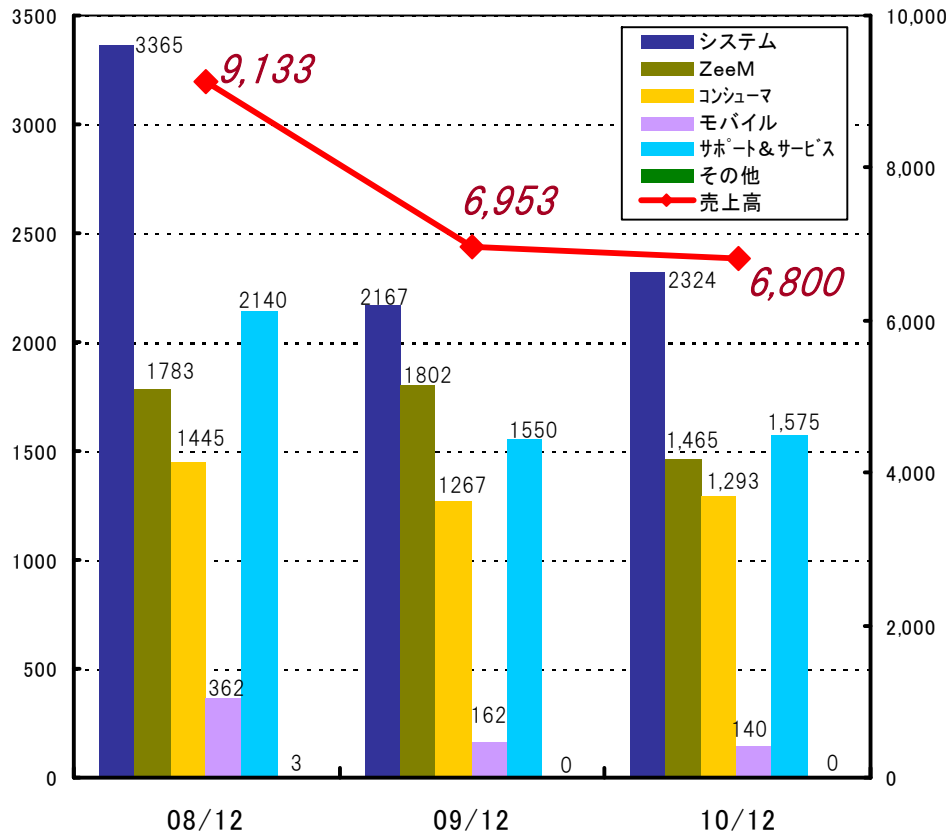
- ・ 上期に発生したシステム開発事業のトラブルPJによる影響が残り、計画値の範囲内であるが、前年同期比減収減益の厳しい決算となった
- ・ 上期の特別損失(キャリア支援制度の加算金129百万円、資産除去債務引当38百万円)に加え第3四半期では制度変更による退職給付引当金の戻入で特別利益が61百万円発生したものの、オフィス移転による現状回復費用(資産除去債務損失)の引当37百万円が発生した

■セグメント別の状況

- ・ システム開発事業は、上期のトラブルPJの残影響により、受注は回復傾向ながら前期比で大幅な減収減益
- ・ ZeeM事業は、「人材開発」、「就業管理」、「サービスデスク」などの新サービスの受注が拡大傾向にあるものの、上期のトラブルPJの影響で減益
- ・ コンシューマサービス事業は、筆まめV21など主力製品が順調に出荷し売上・利益ともに増加
- ・ モバイル事業は、受注・売上ともに依然弱含みだが、経費の削減により損失額縮小
- ・ サポート&サービス事業は、新規顧客獲得により売上は増加だが、利益幅が薄く経費削減に努めるものの利益額は減少

2011年3月期第3四半期(累計) 決算の概要(売上)

売上高:セグメント別



四半期別売上高

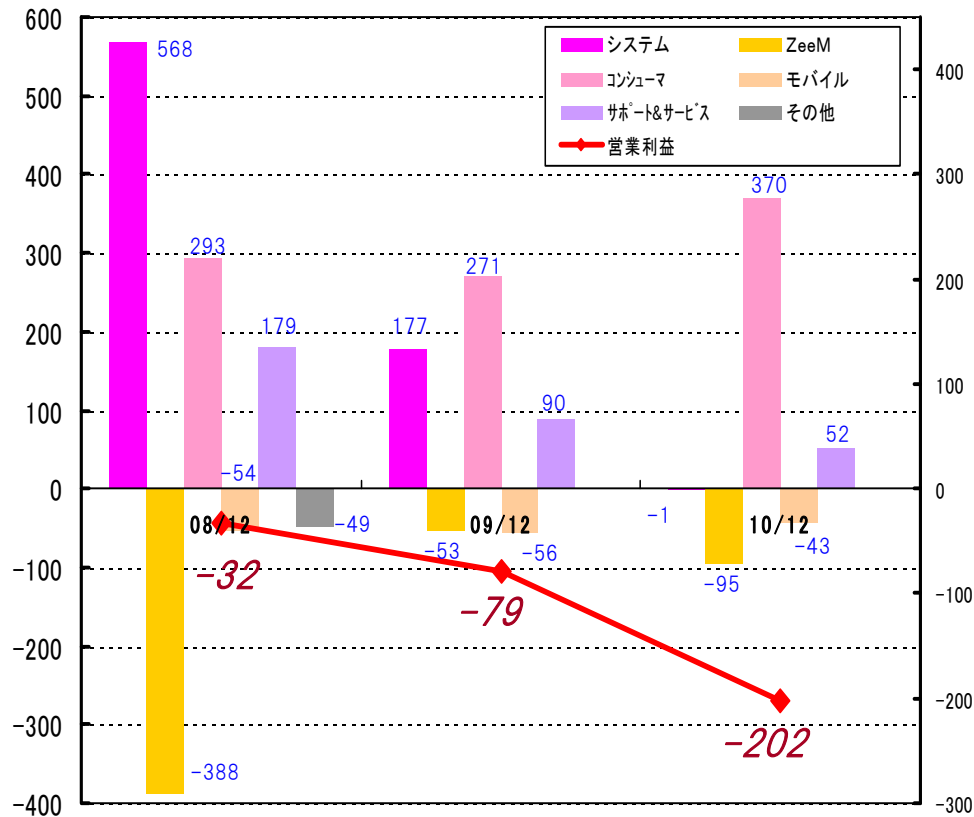
	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q
09/3	2,554	3,631	2,947	2,986
10/3	1,893	2,701	2,359	2,564
11/3	1,816	2,573	2,410	—

	2010/3期 第3四半期	2011/3期 第3四半期	増減額	増減率
システム	2,167 (2,517)	2,324	157 (△193)	7.3% (△7.6%)
ZeeM	1,802 (1,452)	1,465	△336 (13)	△18.7% (0.9%)
コンシューマ	1,267	1,293	26	2.1%
モバイル	162	140	△21	△13.5%
サポート& サービス	1,550	1,575	25	1.6%
連結合計	6,953	6,800	△153	△2.2%

※当期よりソリューション事業部をZeeM事業→システム開発事業に編入しているため、()書で前期数値を当期と同様の基準数値を参考として表記しております。

2011年3月期第3四半期(累計) 決算の概要(営業利益)

営業利益:セグメント別 (百万円)



四半期別営業利益

	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q
09/3	-301	258	10	-73
10/3	-285	242	-35	140
11/3	-309	161	-53	—

	2010/3期 第3四半期	2011/3期 第3四半期	増減額	増減率
システム	177 (191)	△1	△178 (△192)	—
ZeeM	△53 (△67)	△95	△41 (△28)	—
コンシューマ	271	370	98	36.4%
モバイル	△56	△43	13	—
サポート& サービス	90	52	△37	△41.9%
連結合計	△79	△202	△122	—

※当期よりソリューション事業部をZeeM事業→システム開発事業に編入しているため、()書で前期数値を当期と同様の基準数値を参考として表記しております。

2011年3月期第3四半期(累計) 損益計算書の概要



〔百万円未満は切り捨て〕

主な科目	2010/12末			2009/12末	
	金額	構成比	増減	金額	構成比
売上高	6,800	100.0%	△153	6,953	100.0%
営業費用	7,002		△30	7,032	
営業利益 (△は営業損失)	△202	-3.0%	△123	△79	-1.1%
営業外損益	11		△1	12	
経常利益 (△は経常損失)	△191	-2.8%	△124	△67	-1.0%
特別利益	61		15	46	
特別損失	231		223	8	
税引前四半期純利益 (△は税引前四半期純損失)	△360	-5.3%	△331	△29	-0.4%
法人税等	22		△13	35	
少数株主利益 (控除)	0		8	△8	
四半期純利益 (△は四半期純損失)	△383	-5.6%	△327	△56	-0.8%

増減ポイント

<売上高> <営業損益>

「決算の概要」の通り

<特別利益>

退職給付引当金戻入 61百万円

<特別損失>

退職特別加算金 129百万円

資産除去債務 38百万円

現状回復費用 37百万円

2011年3月期第3四半期 貸借対照表の概要①

〔百万円未満は切り捨て〕

主な科目	2010/12末			2010/03末	
	金額	構成比	増減	金額	構成比
資産合計	5,932	100.0%	174	5,758	100.0%
流動資産	5,041	85.0%	250	4,791	83.2%
現金・預金	2,455		△55	2,510	
受取手形及び売掛金	1,916		148	1,768	
棚卸資産	511		171	340	
その他	161		△15	176	
貸倒引当金	△3		0	△3	
固定資産	890	15.0%	△77	967	16.8%
有形固定資産	165		△9	174	
無形固定資産	440		△36	476	
のれん	60		△37	97	
その他	380		1	379	
投資等	284		△32	316	

増減ポイント

<流動資産>

・受取手形及び売掛金：
筆まめの出荷に伴う売掛金による増加

・棚卸資産：
システム開発事業、ZeeM事業の仕掛増加

2011年3月期第3四半期 貸借対照表の概要②

〔百万円未満は切り捨て〕

主な科目	2010/12末			2010/03末	
	金額	構成比	増減	金額	構成比
負債合計	2,074	35.0%	557	1,517	26.3%
流動負債	1,923		602	1,321	
買掛金	307		69	238	
短期借入金および社債	23		△2	25	
その他	1,593		535	1,058	
固定負債	150		△46	196	
長期借入金および社債	8		8	0	
その他	142		△54	196	
純資産合計	3,857	65.0%	△384	4,241	73.7%
資本金	3,149		0	3,149	
資本剰余金	1,428		0	1,428	
利益剰余金	△601		△383	△218	
自己株式	△122		0	△122	
株式等評価差額金	0		0	0	
少数株主持分	4		1	3	
負債純資産合計	5,932	100%	174	5,758	100%

増減ポイント

<流動負債>

・その他:

- 一筆まめ出荷に伴う返品調整引当金計上による増加(218百万円)
- 一資産除去債務引当(62百万円)

<固定負債>

・その他:

- 退職給付引当金の戻入による減少(61百万円)

2011年3月期第3四半期 キャッシュフロー計算書の概要

〔百万円未満は切り捨て〕

区 分	2010/12末		2009/12末
	金額	増減	金額
営業活動 C F	127	64	63
税金等調整前四半期純利益	△360	△331	△29
減価償却費	228	14	214
売上債権の増減額（増加：△）	△147	△279	132
たな卸資産の増減額（増加：△）	△171	139	△310
仕入債務の増減額（減少：△）	68	191	△123
その他	509	330	179
投資活動 C F	334	769	△435
有形固定資産の取得	△4	△1	△3
無形固定資産の取得	△201	74	△275
定期預金の預入/払戻	520	850	△330
その他	19	△154	173
財務活動 C F	2	67	△65
短期借入れによる収入	40	20	20
短期借入れの返済による支出	△45	△45	0
その他	7	92	△85
現金及び現金同等物の期末残高	2,445	394	2,051
3ヶ月超の定期預金残高	10	△720	730
現金及び預金	2,455	△326	2,781

増減ポイント

<営業活動キャッシュフロー>

・たな卸資産の増減額、仕入債務の増減額による

<投資活動キャッシュフロー>

・3ヶ月超の定期預金払戻しによる増加

2011年3月期の計画



(百万円)	2010/3期 通期	2011/3期 通期	
		計画値	前期比
売上	9,518	10,350	8.7%
営業利益	62	40	△36.3%
経常利益	82	40	△51.4%
四半期純利益	86	15	△82.7%

■ 通期見通し

- ・ 売上および営業損益ベースは概ね予定とおりに推移。
2010年4月28日予想を継続し、着実にクリアを目指す。
- ・ 特別損益ではオフィス移転や希望退職のコスト等の影響を見通した上で必要であれば修正



事業の概況

セグメント毎の概況

ZeeM 事業

- 第3四半期も受注状況は厳しく、なかなか需要好転の兆しが見られない。
- プロダクト系(ZeeM会計、ZeeM人給)は、現行の商談の成約率アップと受注時期の前倒しに注力しているが、成果は未だ不十分。ただ、Intramartを使ったテンプレート系の製品(就業管理、人材開発)の受注は拡大傾向。
- ICTサービス系のZeeMサービスデスクは、順調に商談数が伸び受注が進んでいる状況、競争力向上の為の製品強化を進める。
- ZeeM事業におけるクラウド化への対応は、引続き、主要パートナー及び販売チャネルとの協業をベースに推進中。

システム 開発事業

- トラブルプロジェクトの再発防止に向け、マンネリ感のあったPMO機能を再強化中。
- 厳しさの増すシステム開発案件受注への対応として、一般の企業ユーザ様市場では、単発の開発案件受注からシステムライフサイクル全般をサービスとして担うビジネスへ転換中。サービスビジネスのストック化を推進して収益の安定化を目指す。また、クラウドコンピューティング時代に向けたデータセンター様向け運用保守、及び監視業務にも注力中。
- 新得意分野としてデジタルサイネージを展開中。クラウド分野での参入商材としても模索中。

コンシューマ 事業

- 筆まめ関連
V21シリーズの出荷は前年並みであったが、エコポイント騒動(筆まめにとってはマイナス要因)等の影響があり、年末商戦の店頭実売は毛筆ソフト市場全体、筆まめともに、昨年度対比95%前後。
⇒12月最終週で前年同期週の実売を上回り、年明け以降も前年を上回って推移。
春商戦の販売施策から夏商戦に向け販売展開を図る。
 - パーソナル編集長関連
発売後1年半以上たち競争力低下。新製品V9シリーズを2/4発売(ライフサイクル2年)。年度内のバージョンアップ需要を見込む。
- ※BCN AWARD最優秀賞受賞一初の三冠
筆まめ(12年連続12回目)、パーソナル編集長(2年連続2回目)、プロアトラス(3回目)

セグメント毎の概況

モバイル 事業

- 総合Webサイト構築関連で社内他部門との連携受注に成果が見え始めたが、システム開発案件の受注状況は引き続き厳しい。
- 重点注力分野としてソーシャルネット分野へ取り組んでいるが、提携先や顧客において期待していた企画の中断が続いており、苦戦中。
- スマートフォン活用分野においても、引き続き取り組んでいる。こちらは商談数がわずかずつ増加傾向にあり、今後を期待している。

サポート& サービス 事業

- 顧客の業務内製化による受注減は解消されつつあるが、前期同様、統合などの効率化施策によるコストダウン要求は引き続き強い状況。
- 既存顧客の新規見込み案件について、来期にずれ込む見通しとなった。来期受注に向けて営業活動を強化する。
- 一部顧客において(内製化から)アウトソーシング回帰の動きが拡大し、新規受注増。引き続き営業活動と受注拡大に注力する。
- 構築・運用監視系業務で、受注が堅調に推移している。引き続き強力に取り組む。

【ご参考】プレスリリース一覧(2010年10月～2010年12月)

10月

伊藤製パン殿、約1000名を支える経理業務基盤として『ZeeM会計』を導入
『プロアトラスSV6 Select ダウンロード版』2010年10月27日(水)発売
パチンコ・パチスロホール様向け「ポスター印刷サービス」開始
船井総合研究所殿、人事給与システム『ZeeM 人事給与』を導入

iPhone、iPad、iPod touch対応『筆まめ年賀2011』11月1日(月)発売
ダウンロードソフト『筆まめ純正デザイン集Select2011』シリーズ11月5日(金)発売
人事給与システムソリューション『ZeeM 人事給与』の最新版を提供開始
『筆まめおつきあい帳2』のダウンロード版 11月24日(水)発売

11月

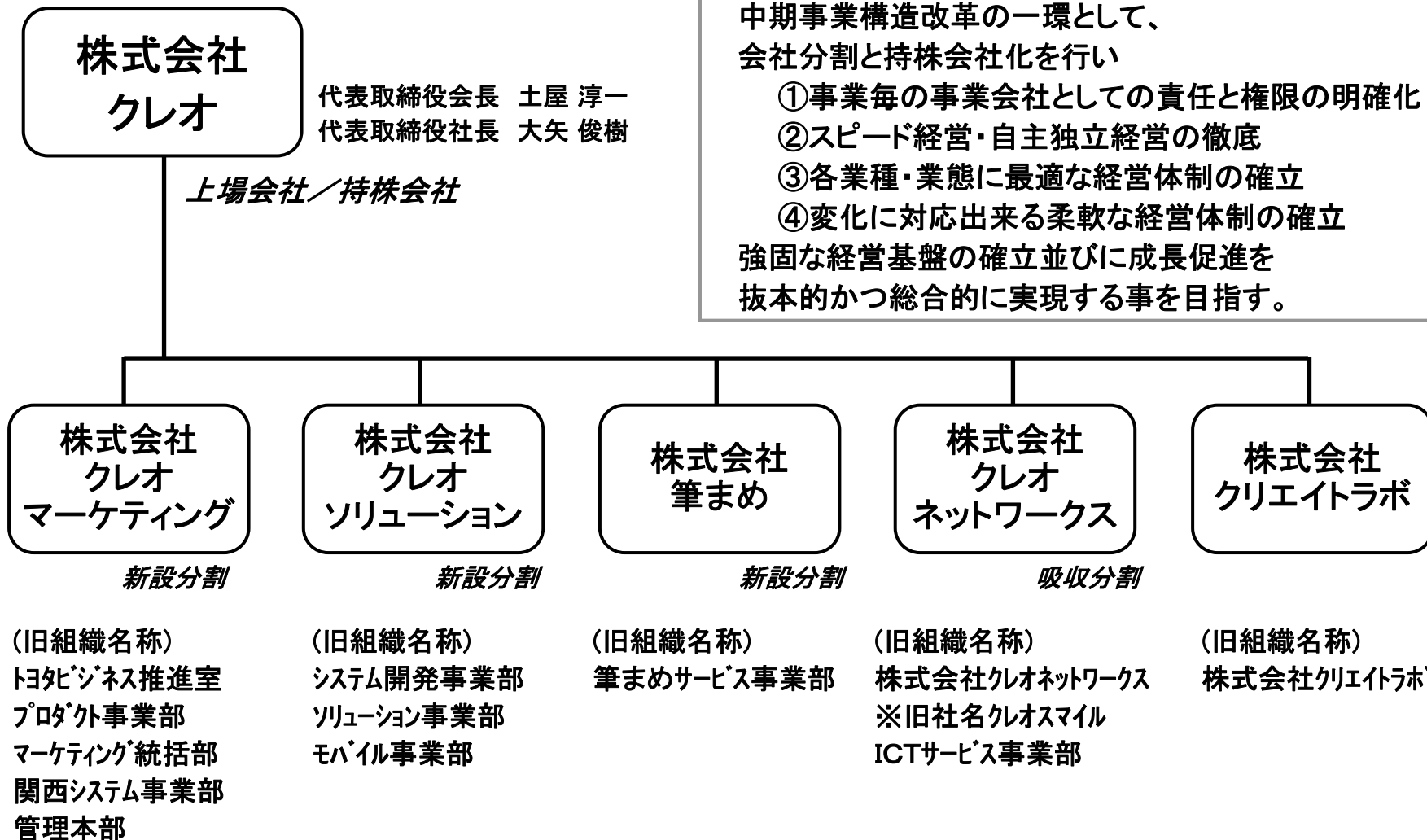
12月

Android端末対応！『筆まめ年賀2011』 12月1日(水)発売
auスマートフォン最新機種IS03対応！『筆まめ年賀2011』12月10日(金)発売
『パーソナル編集長Ver.9』2011年2月4日(金)発売
※会社分割による持株会社制への移行を発表(12月17日)

【ご参考】 持株会社制移行について

・グループ組織図

(2011年4月1日予定)



・持株会社制移行の目的
中期事業構造改革の一環として、
会社分割と持株会社化を行い

- ①事業毎の事業会社としての責任と権限の明確化
- ②スピード経営・自主独立経営の徹底
- ③各業種・業態に最適な経営体制の確立
- ④変化に対応出来る柔軟な経営体制の確立

強固な経営基盤の確立並びに成長促進を
抜本的かつ総合的に実現する事を目指す。

—ご清聴ありがとうございました—



<IR窓口> 株式会社クレオ 広報IR室 : TEL03-3445-3539

本資料に記載される見通し、今後の予測、戦略などに関する情報は、本資料作成時点において、当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲でなした判断に基づくものです。しかしながら、現実には、通常予測し得ないような特別事情の発生または通常予測し得ないような結果の発生等により、本資料記載の見通しとは異なる結果を生じるリスクを含んでおります。

当社といたしましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めて参りますが、本資料記載の見通しのみ全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控え下さるようお願いいたします。

なお、いかなる目的であっても、本資料を無断で複写・複製、または転送などを行わないようにお願いします。